

第6次泉南市総合計画策定にかかる市民ワークショップ

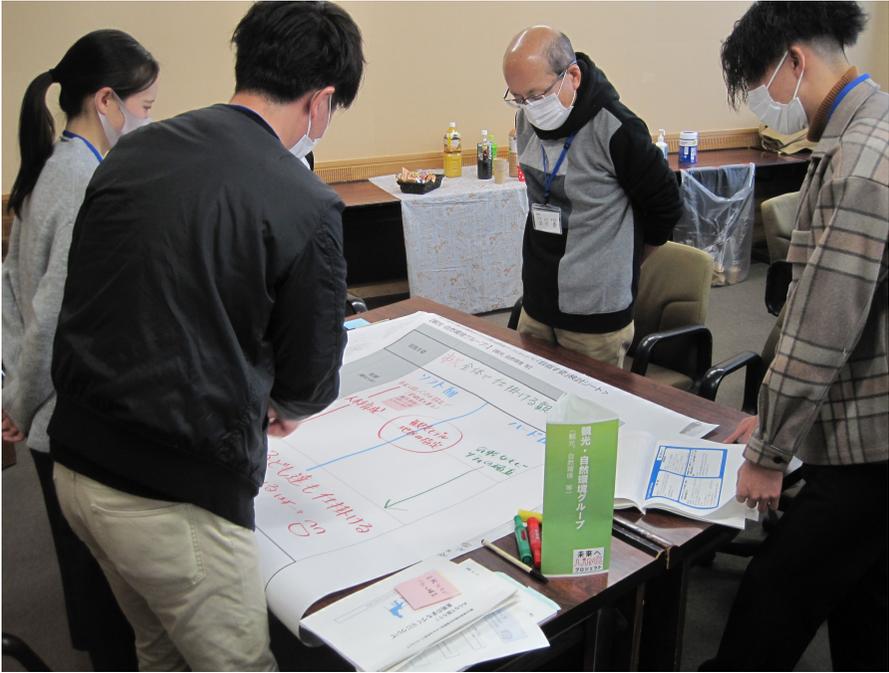
みんなで語ろう！泉南のまちづくりについて



令和3年11月27日ワークショップ まとめ

目 次

1. ワークショップの概要.....	1
2. 実施結果.....	2



1. ワークショップの概要

(1) ワークショップの目的

第3回ワークショップの検討結果を踏まえ、テーマごとに将来の目指す姿と短期・中期・長期の取組アイデアについて検討しました。

(2) 検討結果のまとめ

グループで話し合った内容は、模造紙にまとめて記入していただき、話し合った内容について、グループごとに報告をいただきました。



【産業グループ:】【農業、漁業、商工業、雇用 等】

目指す姿	
取組 み	短期 (概ね5年)
	中期 (概ね10年)
	長期 (概ね20年~)
その他	

2. 実施結果

【産業グループ(農業、漁業、商工業、雇用 等)】《結果のまとめ》

目指す姿		自然と産業の共存		
取り組み	短期 (概ね5年)	<ul style="list-style-type: none"> ■自然を取り戻す(共存) ■生活の利便性と自然環境保全の両立 ■自然を活かした体験や観光プログラムをつくり ■1次産業に興味をもつ人をつくる ■農地、空き地、空き家、廃校利用 ■体験プログラム(伝統文化、クラフト、農業、漁業)担い手や、1次産業に携わる人を発掘 ■Sennan Nature School の拡散 ■豊かな農地保全 	<ul style="list-style-type: none"> ■IT ■ブランド化 ■高付加価値 ■泉南ブランドを作っていく ■ブランドで作る為の研究費を用意する ■名産物の PR ■産業を活発にする事が雇用につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ほんものを作る ■自然回帰 ■交通の便の工夫→ちらばった魅力的な観光地や施設をつなぎ訪れやすくする ■条例変更、住みやすい ■企業が泉南市に来てもらえるような働きかけ ■企業同士のタイアップ ■技術力の PR
	中期 (概ね10年)	<ul style="list-style-type: none"> ■産業、漁業に携わりたい人への補助 →設備費用、弟子入り中の補助 ■自然環境教育に力を入れる →若い世代に農業・漁業に関心を持ってもらう(担い手育成) 	<ul style="list-style-type: none"> ■有機栽培→市全体→ブランド化して価格価値をあげる ■野菜、魚、物の商品価値を高める 	
	長期 (概ね20年)	<ul style="list-style-type: none"> ■自然と人の関わり方 ■市全体の SDGs <p style="text-align: center;">自然環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■歴史的な街道と伝統文化の融合→伝統を受け継いでいる人を呼んできて、“伝統のまち”づくり ■環境に配慮された使いやすく魅力的な商品づくり <p style="text-align: center;">産業(ブランド化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・泉南市に住む若い世代を増やす ・しがらみをなくす ・山から海へ電車を通す <p style="text-align: center;">インフラ・商工業</p>
その他	若者を支える大人の育成			

【産業グループ(農業、漁業、商工業、雇用 等)】《報告要旨》

目指す姿は「自然と産業の共存」とし、自然環境と産業（ブランド化）とインフラ・商工業の3つに分けて発表する。

自然環境での目指す姿を「自然を取りもどす 共存」とし、自然を活かした体験や観光プログラムをつくり、一次産業に興味を持ってもらえる人づくりをしていく。生活の利便性と自然環境の両立をしていくことが目指す姿。短期では、農地、空き地、空き家、廃校を利用した体験プログラムをし、伝統文化、クラフト、農業・漁業をすることで、担い手や一次産業に携わる人を発掘するとともに、豊かな農地保全をしていく。観光協会が主導でやっている泉南ベンチャースクールをもつと形を作って拡げていく。中期では、一次産業に携わりたい人への補助。漁業をやろうと船を買おうとすると家が一軒建つ金額。設備補助や弟子入り中の生活への補助をしていく。また、自然環境教育に力を入れる。若い世代に農業漁業に対して興味を持ってもらい担い手育成につながればよい。長期では、自然と人の関わり方を考え、市全体でSDGsや自然環境について考えていく。

産業のブランド化について、水ナスや泉州タオルやアナゴなどをPRしつつ、新たにブランドを作れたらと思う。研究費が用意できるかも考えなければいけない。産業を活発にすることが雇用にもつながる。ブランド化は主に野菜関係。有機栽培を市全体で行えばブランド化につながる。どうやって商品価値を高めていくか考えなければいけない。長期的には歴史的な街道を大事にし、観光面、伝統文化の融合を図り、風景も含めて伝統を受け次いだ泉南らしい伝統のまちをつくりつつ、ブランド化していく中で環境に配慮していければというまとめになった。

インフラ・商工業について、自然環境と産業（ブランド化）をしていく中で重要になるのは人という財産。短期では交通の便について、インフラ全体を変えるのではなく、今ある中で工夫できないか。観光地や施設をつなぎ、身近にふれてやすいようにしていく。企業の力を借り、泉南市に来てもらえるような働きができないか。そこから企業同士でタイアップしてもらおう働きかけができれば。泉南市に若い世代を増やすため、3世代同居により固定資産税を減免する取組の枠を拡大できないか。今はコロナ禍で難しいが、見えている利益を優先するのではなく、長期的にしがらみをなくしていけるようなものがないかというまとめになった。

若い人の意見をくみ上げる高齢者もたくさん出てこなければ。若い人を育てていくということ。人を育てることの大切さを推進していければいいまちになるのではないかと思う。



【福祉・健康グループ(高齢福祉、障がい福祉・子育て、地域福祉、保健・医療 等)】 《結果のまとめ》

目指す姿		枠を越えた 人と人との交流	
取り組み	短期 (概ね5年)	<ul style="list-style-type: none"> ■ つながりをつくる為のきっかけづくり ↓ ■ 多くの人、幅広い年齢層の方が参加できるボランティア活動の実施など(清掃活動とか) ■ 幅広い年齢層の多くの方々が同じ目標をもって活動できるイベント・ボランティア活動を実施し、泉南市民の絆を深める ↓ ■ つながり・絆が強くなり交流が盛んになる ■ 高齢者、障害者、子どもなどの施設間の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障がい者や子ども達に農業を教える人の募集 ■ 休耕地の利用促進 ■ 農業をしたい人を募集 ■ 空いている畑を把握する ■ 空いている農地の把握に加え、農業だけでなく、文化を伝承して下さる方の教えを把握する ■ 住民同士が交流できる機会づくり ■ 地区ごとの体育大会を開催 ■ 三世同居に対する減税などのハードルを下げる ↓
	中期 (概ね10年)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 介護施設・障がい者施設の担い手を増やす。また、長く働けるよう支援する ■ 農業指導者の育成 ■ ボランティア文化の育成 ■ 農業を通じた地域福祉 ■ 仕事・スキルの伝達、指導 ■ 空き農地を活用して、農業を通じ、文化の伝承。また、子どもや障がい者と交流し、それぞれの自律自立を目指す場とする ■ 高齢者の配食サービス ■ 小学校給食のシステムを活用し余力を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三世同居による市民人口の流出を低減する ■ 市民体育会の企画開催
	長期 (概ね20年)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短期で清掃活動などを通じた世代間交流、つながりを強め、中期で空き農地を利用し、子どもや障がい者の自律自立を目指す ■ 長期では農業に限らず、子育て、産業、身近な困り事などあらゆる場面で助け合える泉南市になる ■ 社会復帰のきっかけとしての仕事づくり ■ 働くよろこび ■ 農業振興 ■ 農業法人の設立 ■ 泉南ブランド、野菜の創出 ■ 高齢者の生きがいを再び感じて頂く ■ 夜間人口を増やす 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市民病院(新しいスタイル) 		

【福祉・健康グループ(高齢福祉、障がい福祉・子育て、地域福祉、保健・医療 等)】 《報告要旨》

目指す姿は「枠を超えた人と人との交流」とした。枠というのは世代や施設、年齢、地区、家族など全ての枠組。それを全部ひっくるめて、みんなが交流することで泉南市民全員が知り合いというような考えで話を進めた。

施設を超えた交流として高齢者、障がい者、保育所、小学校などの施設がある中で、身体は動かしにくい、農業などの知識がある高齢者が、身体は元気だが知識のない障がい者や子ども、いろいろな方に教えて、野菜など何かを育てていく取り組みをする。中期的には教えてもらった側も指導者として教える側になっていき、こだわりをもった野菜づくりでひとつのブランドにもなるのではないかと。それを販売すればその取組自体が事業となって収入が得られる。長期的にはブランド野菜や、それが高齢者、障がい者の仕事にもなるのではないかと。

休耕地が目立つという意見もあり、農業を通じて市民の交流が増えればいいのではないかと意見が多くあがった。障がい者の方に仕事として農業を担っていただく。田畑があるということは、体が動かせなくてもノウハウを持った方が残っているということ。そうしたものをいろいろな方が参加できる形で休耕地を使った取組がすぐできることなのではないか。指導者育成とボランティア、できた作物を子ども食堂で使うなど幅広く活用できるのではないかと。

また、農業などに関わらず泉南市に昔こういう仕事があった、文化があったということ若い世代に向けて引継ぎ、伝承・指導していければいいと思う。

泉南市のブランド野菜、収益がとれる野菜になればいい。高齢者施設や障がい者施設を見学した時、地区ごとの体育祭など住民同士の交流が昔は盛んだったと聞いた。近隣のまちでは色々な老人会や婦人会を超えた枠組でやっているという話も聞いたので復活できればと思う。三世帯同居で税金が減免される制度があるが非常に使いにくく、他の市町ではハードル低いという話もあったので、周りの地域のいいところを参考にして、泉南市でも活用できればという話が出た。



【住環境・教育・歴史グループ(学校教育、生涯学習、スポーツ、歴史・文化、都市整備、移住・定住等)】《結果のまとめ》

目指す姿		人が育ち、住みつづけたいまち		
取り組み	短期 (概ね5年)	情報活用 <ul style="list-style-type: none"> ■メディアの活用 ■コミュニティバス ■電光掲示板 ■ケーブルテレビ ■LINE、TikTok、Twitter、YouTube をより活用する ■お年を召した方への IT 講習 	街づくり <ul style="list-style-type: none"> ■空き家の活用(カフェ) ■企業誘致(税、マッチング助成) ■歴史を活かしたプロモーション (映えスポット、〇〇聖地) ■映画、アニメ、ワーケーション誘致 ■古い街並を利用したイベント ■クラウドファンディングの活用 	教育 <ul style="list-style-type: none"> ■学力をあげる→自主性、個人意見の尊重 ■子ども会議 ■家族以外の人と関わる機会を増やす
	中期 (概ね10年)	<ul style="list-style-type: none"> ■市の庁舎の建て替え ■市役所の建て直し (情報発信の場、市のシンボル) ■全ての情報がつまった案内所を増やす (区民センター、イオン、ロングパーク) 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民の収入を増やす ■事業所の成長支援 ■雇用が増える、人口減少をとめる ■商業の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ■小中一貫教育
	長期 (概ね20年)	<ul style="list-style-type: none"> ■電子端末の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ■関空にもう一つ連絡橋をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、専門学校を建てる (小、中、高生の目標となる)

【住環境・教育・歴史グループ(学校教育、生涯学習、スポーツ、歴史・文化、都市整備、移住・定住等)】《報告要旨》

目指す姿は「人が育ち、ずっと住み続けたいまち」とし、柱として情報活用、まちづくり、教育の3点に絞って考えた。

情報活用の短期ではメディアの活用、PR力が不足しており、コミュニティバスで中吊り広告を出す、電子掲示板の設置、ケーブルテレビなどの活用が挙げられた。LINE、Twitterもやっているが検索しても出てこない。もっと活用することが大事。高齢者がついていけるようIT講習などもすぐにできる。中期の10年後位のこととして、案内所を増やすという意見が出た。今も1箇所あるが区民センター、イオン、ロングパークなどにも設置し、観光客や市民に周知できる環境ができれば。泉南市は住み良い所だが商業がほとんどないため、商業を発展させるため市で援助願いたい。市庁舎は60年経過し、2階建て、古くて貧しい感じがする。市のシンボルなので建て替えをお願いしたい。市役所としてだけでなく、コミュニティエリアなど市民が集って話ができる複合施設としてもよい。20年後にできたらいいこととして電子端末を配布してはどうか。GIGAスクールでは児童生徒に電子端末があるが、一世帯一つなど一人暮らしの高齢者にも情報提供や見守りの意味も含めて配布できれば、スピーディに市民に情報をいきわたらせることができる。

まちづくりでは、歴史を活かしたプロモーションとして熊野街道や歴史の活用、建物とか藤棚を撮影スポットとして利用していくのも案。「鬼滅の刃」にも藤が出てくるので若い人にもアピールできる。歴史ある建物もロケーションとして誘致し、映画の撮影地になれば聖地巡礼で来ていただくこともできる。定住について少子高齢化で人口が減少しているので、企業誘致して泉南市にとどまってもらいたい。若い人と廃業したい人のマッチング、助成金やクラウドファンディングの活用、官民共同で泉南市の熊野街道などの財産を活用したイベントを開くなどまちの活性化をしていきたい。短期的な事業を重ね10年後には雇用が増えて市の収入も増えていくのでは。

教育について、教員と子ども達のミスマッチ起きている。大人は勉強を頑張るって偏差値をあげることが大事と考えているが、子どもは課題をこなすことでいっぱい何故頑張るか分からないままエネルギーを注いでいる。泉南中学校でこども会議を見学したが体験することで勉強の意義を知ることができる。そのような取組が良い。家族以外の大人やお兄さんお姉さんと触れ合うことで学ぶ意味が深まるため小中一貫教育や、20年後には大学などつくってもらいたい。真剣に学んでいるお兄さんお姉さんとふれあうことでいい循環ができ、まちに帰ってきてビジネスが生まれるのでは。



【防災・防犯グループ(防災・防犯、消防・救急、消費生活 等)】《結果のまとめ》

目指す姿		地域力を活かした安心安全な町づくり 共に守ろう！ずっと住み続けたい町、せんなん！		
取り組み	短期 (概ね5年)	緊急時のため ■災害時、消防団員にリーダーシップをとってもらえるようにしておく	準備 ■地域の防災訓練 ↓ 店舗を利用してPR (地域のイベントも利用) 夏祭り、秋祭りも ■地域ごとに、防災士の育成 (講習代、試験代を市で補助)	普段の安全のため ■知ってもらう機会を増やす (消費者相談、ハザードマップ等) ■自転車の左側通行の指導
	中期 (概ね10年)	■自主防災組織と消防団員の協定	■学校の避難訓練を強化 (ケースに応じた避難場所の周知)	■電柱等を活用して、災害時に利用できるような数値や矢印を増やす (海拔表示みたいなやつ) ■通学路にガードレールを増やす
	長期 (概ね20年)	■自主防災組織で、「助ける」仕組みを構築		■自転車専用レーン ■人感センサー、街灯を増やす

【防災・防犯グループ(防災・防犯、消防・救急、消費生活 等)】《報告要旨》

目指す姿は「地域力を活かし、安全安心なまちづくり ともに守ろうずっと住み続けたいまち泉南」とした。

街歩きの際に防犯カメラと防災コミュニティセンターを見に行き、災害時の備蓄をみて、一定整備されていると感じた。取組としては一定整備されているため、その他にどういったところを強化していきたいか付箋の色を分けて話し合った。

緊急時について、災害時に消防団員にリーダーシップを発揮していただき、避難を率先できる環境をつくりたい。泉南市は近隣市に負けないぐらい消防団があるのでリーダーシップを発揮してもらいたい。地域ごとに防災士を育成していきたい。自分達でも地域で守っていけるようにする。市が講習費を援助できる形ができたらいと思う。中期的には自主防災組織と消防団がそれぞれ協定を結び、災害時に避難を一緒にできる形にしていきたい。長期的には自主防災組織が避難の不安な方などを助けられる仕組みをつくっていったらいいと思う。

普段の取組について、市民に知ってもらいたいこととして避難場所を普段から意識づけるようにしたい。短期では地域の防災訓練をどこでしているかということ、秋祭りや夏祭りなどの機会にキッチンカーや雑貨屋を集め、親子が集まれるイベントを使ってPRできればよい。あわせて、消費者相談とかハザードマップも使って知ってもらう機会としたい。中期的には教育面として、小中学校での避難訓練を強化することで、それぞれのフェーズで場所、想定を変えながら意識づければと考える。電柱に避難場所がある場所までの矢印や、海拔表示などをして意識づければ。

普段の道路の状況、事故を防止するためにどうすればいいか。短期的には自転車の左側通行について、中期的には通学路のガードレールの設置増加、長期的には自転車専用レーン。人感センサーの設置増加で未然に防ぐことなどを考えた。



【観光・自然環境グループ(観光、自然環境 等)】《結果のまとめ》

目指す姿		市民全体で仕掛ける観光まちづくり	
取り組み	短期 (概ね5年)	<p>ソフト面</p> <ul style="list-style-type: none"> ■市民人材バンクの設立(登録者を募る) 観光資源に詳しいその道のプロを探す <p>↓</p> <p>人材育成</p>	<p>ハード面</p> <p>気軽なモビリティの確立</p>
	中期 (概ね10年)	<p>観光モデル地区の指定</p>	
	長期 (概ね20年)	<p>今の子ども達も仕掛ける側になっているはず、、、?</p>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■他の分野との連携 ■雇用、市内完結型、出ても戻って来てくれたら、、、 ■継続的なワークショップ開催 		

【観光・自然環境グループ(観光、自然環境 等)】《報告要旨》

目指す姿は「市民全体で仕掛ける観光まちづくり」とした。イメージとしては京都の美山。かやぶきの屋根で景観がよいところがある。まちの皆さん全員が意識して取り組まれているから景色が統一されていると思う。そういう意味で「市民全体で」と掲げた。

ソフト面で、まずは市民人材バンクとして隠れた人材を発掘して登録してもらおう。自然や歴史の細かなことを知っている人、様々な特技や知識を一堂に集める人材バンクシステムを作れたらと思う。それをもとに人材育成していく。市民が寄ってたかって観光に寄与していくまちづくりができれば。

ソフト面の取組をする一方で、ハード面で気軽なモビリティの確立として移動手段を確保する。現状、バスは走っているが行き先が固定化されていて、目的の場所まで行きたくても時間がかかる。そういうことにとらわれない気軽な移動手段を作っていけたらと思う。ゴルフカートのような乗り物を走らせていきたいところへ行けるような取組をしている自治体も全国で 100 箇所ほどあるらしい。そうした先進事例をみながら取り入れていけたらと思う。

人材育成をしながら、ハード面の気軽なモビリティの確立もしつつ、観光地区の指定をして、そこから泉南市内全体に拡げていけたらと思う。今回は5班に分かれて考えていたが、他分野の取組などと連携しながらやっていく必要がある。20 年後には仕掛けるまちづくりというのを、今の子どもたちも仕掛ける側になってくれていたらいいなという思い。

泉南市で仕事をして、泉南市で完結できるようなまちづくり。産業などの話と関係してくるが、観光などもそれらと連携してやっていかなければいけないのではないか。



第6次泉南市総合計画策定にかかる市民ワークショップ

発行年月：令和3年11月

発行：泉南市 政策推進課

〒590-0592 泉南市樽井一丁目1番1号

TEL：072-483-0004（代表）